

JAみやぎ登米における 輸出用米の取り組みについて

令和2年10月

環境保全米のふるさと



1. 輸出用米の取り組み状況

主食用米の消費減少の中、農家所得の向上と将来の販路拡大を見据え、平成30年度に大手米卸業者である(株)神明の提案をきっかけに、輸出の取組を開始した。

輸出用米に取り組む生産者は、説明会等を通じ、平成30年度の235人から、令和2年度には474人に増加した。

単協では国内最大級の輸出量であり、令和2年度には輸出開始当初の目標である輸出量2,000トンを達成した。輸出先は、香港を中心にアメリカ、タイなどとなっている（令和元年度の香港への輸出量については、平成30年度の2倍以上に増加）。

●輸出用米の生産量

(単位：トン)

品種名	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ひとめぼれ	938	1,291	1,787
つきあかり	0	544	641
計	938	1,835	2,428

●作付面積の推移

(単位：ha)

品目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
主食用米	8,362	7,985	8,287
備蓄用米	47	131	155
加工用米	89	48	41
飼料用米	621	478	290
輸出用米	168	329	435



